

中国の金利引き下げについて

2015年8月26日

中国人民銀行は8月25日に、金融機関の1年物貸出基準金利を0.25%引き下げて4.6%に、1年物の預金基準金利を0.25%引き下げて1.75%とすることを決定しました(適用は8月26日から)。

利下げは6月以来の約2ヵ月ぶりで、昨年11月以降では5回目となります。中国人民銀行は合わせて9月6日から金融機関の預金準備率を0.5%引き下げることもしました。預金準備率の引き下げは4月以来で約4ヵ月ぶりとなります。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

中国の株式市場では、代表的な株価指数である上海総合指数が6月に今年の高値を付けた後、下落が続いています。中国政府による株価対策によって、7月には一時的に落ち着きを取り戻したかに見えたものの、中国経済の先行きに関して懸念が強まっているにも関わらず、当局が追加対策を打ち出さないことが嫌気され、8月25日に上海総合指数は昨年12月以来の3,000ポイント割れとなりました。中国政府は7月の株価急落時には、株価の下落を抑えようとして買い支えを行いました。効果がなかったことがはっきりしたため、直接的な株価対策ではなく、金融緩和に踏み切ったものと思われます。また、先日中国人民銀行は突然人民元の切り下げを行いました。為替相場の安定と資本流出抑制のために行った人民元買いによって流動性が引き締まっていたため、その緩和も狙ったものと考えられます。

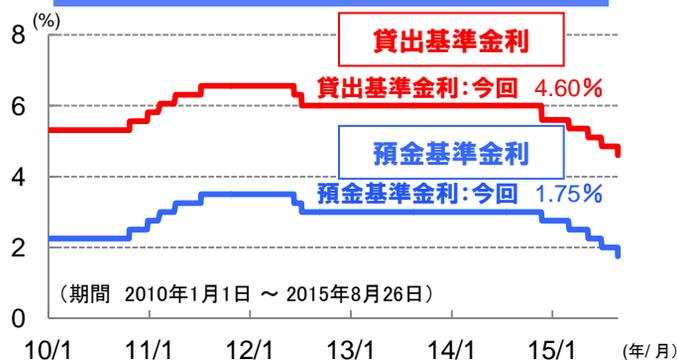
《今後の見通しについて》

今回の金融政策にはある程度の効果は期待することができますが、それだけで中国の実体経済を下支えることができるかと言えば、それは困難と思われます。金融緩和は国内向けにはプラスの効果が期待できますが、対外的にはさらに人民元の下落圧力が強まり資本流出が加速する恐れもあるため、金融政策で対処することには限界があるとみています。最近発表された様々な景気指標が示している中国経済の先行き懸念を抜本的に払拭するには、財政政策の発動が望まれるところであり、今後の中国政府の動向に注目していく必要があります。

《上海総合株価指数の推移》



《中国の政策金利等の推移》



《人民元の対円レートの推移》



出所: Bloombergデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。